

県境を越えた「コンパクトシティ」の実現！

備後都市圏では県境を越えた圏域を形成

備後都市圏は、福山市を中心とした県境を越えた6市2町から形成されています。特に福山市北部の神辺・駅家については、“地域拠点”として位置付けられています。同地域には、福山平成大学が開学(H6.4月)したほか、中国中央病院が移転(H16.12月)されるとともに、大型ショッピングセンターも立地されるなど、エリアとしての中枢性が高まっています。

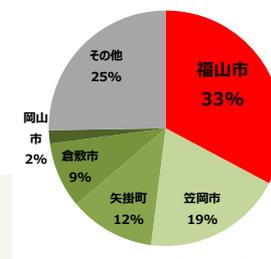


神辺バイパスの整備により、地域間のアクセス性がさらに向上！

福山市北部エリアと井原市とを連絡する国道313号は、日当たり14,000台以上の交通量が行き来し、拠点間を連絡するネットワークとして機能しています。

現在、当該事業の推進により、バイパス整備がすすめられているものの、一部区間の未供用により、ネットワーク効果が十分に発現されていない状況です。

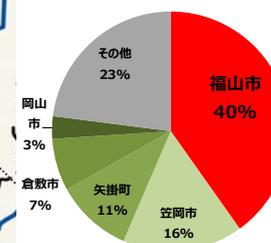
神辺バイパスの整備により、福山市北部エリアを地域拠点としたネットワーク基盤がより強固なものになるとともに、県境を越えた地域生活圏の形成(「コンパクトシティの実現」)が期待されます。



市外から井原市へ通勤する方の約3割(約1,900人)*が福山市から通勤

*自市内通勤除く。

▲市外から井原市へ通勤する人の主な居住先

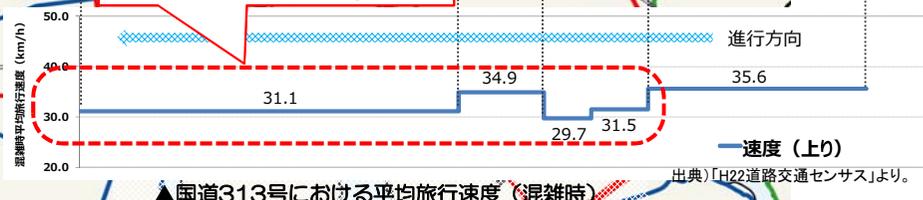


井原市から市外へ通勤する方の約4割(約2,800人)*が福山市に通勤

*自市内通勤除く。

▲井原市から市外へ通勤する人の主な通勤先

神辺バイパスと並行する現道の平均旅行速度は30km/h程度



住民の声

・隣接する井原市との交流が高まっていると感じます。
 ・井原市側から福山市北部エリアへの買い物客が増えていると思います。また、福山市北部エリアの住民が井原市の体育施設を利用することもあります。



福山市在住(H27年6月ヒアリング)